

# ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT

2016-2017

名古屋名南ロータリークラブ

■ 承認 / 1991年3月8日 ■ 例会日 / 火曜日・PM6:30 ■ 例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル  
■ 会長 / 木下 福郎 ■ 幹事 / 細井 俊男 ■ 会報・雑誌・広報委員長 / 木村 猛  
■ 事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号  
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054



人類に  
奉仕する  
ロータリー

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail [info@meinan-rotary.com](mailto:info@meinan-rotary.com) 2016-17年度 国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

## 第 1209 回

2017年2月14日(火) 晴 第27回

～ 平和と紛争予防 / 紛争解決月間 (2/23ロータリー創立記念日・世界理解と平和の日) ～

斉 唱 我らの生業  
出 席 会員 53名 (出席率算入人数 41名)  
出席 35名 出席率 85.37%  
前々回補填率 97.73% (1月31日分)  
ゲスト 中部大学 特任教授  
武田 邦彦氏

### 2月の結婚記念日

11日 本多 利郎さん 18日 佐々木元彦さん  
19日 鈴木 享さん 28日 大橋さなえさん

### 会長あいさつ

会長 木下 福郎さん

皆さま、こんばんは。本日は私の大好きな武田先生にもう一度来ていただきまして、本当に卓話を楽しみにしております。ありがとうございます。

先日の安倍首相とトランプ大統領との会談は、日本にとってもアメリカにとっても非常に良かったのではないかと考えております。テレビを見ておりまして私が思い出したのが、何年前かは覚えておりませんが、東京RCの例会に出席した時に、たまたま自民党から民主党に政権が変わった時でして、その時の卓話者が外務省の事務次官の方でした。その方は、「民主党に政権が変わって、皆さまから外交政策はどうなるのでしょうかと質問を受けるのですが、日本国の国益を考えて外務省はやっています。政権や党がどう変わろうと国益は変わらないので、恐らく変わらないと思います。」と仰っていました。

今回もトランプ大統領がいろんな事を仰っていますが、基本的にはそんなに大きく変わる事はないのではないかと考えています。このまま日本とアメリカの関係が維持できればいいと思っています。これはこれからの成り行きを皆さまと見守っていくしかないと思いますが、日本の将来がうまくいくことを祈っております。



### 幹事報告

幹事 細井 俊男さん

1. 次回2月21日(火)は創立記念例会です。あつた蓬萊軒さんの陣屋で行われますのでお間違えのないよう宜しくお願い致します。時間は18時30分からです。
2. フォト俳句展の出展案内が名古屋北RCより届いております。詳細につきましては、事務局へお問い合わせください。

### ニコボックス

◆ 本日は武田邦彦先生の卓話です。楽しみにしています。

江松 央統さん 森田敏二三さん 高橋 司さん  
朝比美和子さん 中村 勝さん 坂本 晃さん  
久米 伸治さん 木下 福郎さん 下村 徹嗣さん  
細井 俊男さん 白藤 憲雄さん 三島多恵子さん  
坂田 信子さん 大平 明子さん 筧 恵理さん  
川瀬 悟さん 長尾 浅吉さん 田中 一雄さん  
鈴木 清詞さん 日下智重子さん 伊藤 圭一さん  
中西 芳子さん 犬飼りさ枝さん 加藤 英敏さん  
入谷 直行さん 新原 尚さん

本日合計 35,000円 累計 1,318,500円

### アンチエイジングエクササイズ

中村 勝さん

### 外部卓話

■ 「ナポレオンと東条英機」

中部大学 特任教授 武田 邦彦氏

武田でございます。2回目の登壇で大変恐縮です。1回目は木下さんから、多分歴史の話をしてという事だったと思いますが、私は元々大学で物理を教えていたので、最初から歴史の話をするのも何かないと思いましたが、そこでご了解を得まして、最初は哺乳動物の雌は生理が終わると全部死ぬのですが、人間の女性だけは何故閉経後も生きているのかという事と、人間の50歳以上の男性は、ご本人は自分が生きているから生きている意味があると思っておられる人が多いのですが、実は学問的には50歳以上の男性が生きている意味がまだ発見されておられません。



非常に簡単に言えば、社会的な貢献、つまり動物の寿命というのは自分が生きようと思っても生きることができないわけで、全ての動物は他人というか社会の為に生きるという特徴があります。簡単に復習しますと、鼠の寿命は1年ですが、象は20年生きます。鼠が1年で死ぬ理由はわかりません。鼠も象もほとんど同じ材料で、骨や肉、皮などができているにもかかわらず、鼠は新品のうちに死に、象は古びて死ぬわけです。ですから、これは体が弱ったから死ぬというわけではなく、死の理由が他にもあるという事です。これはもう分かっておりまして、人生に於ける経験の数が一定になっている事で決まっています。

それから鮭などが次の例ですが、産卵をすると受精の状態を雌と雄で確認をすると、同時に雌と雄が死にます。完全に同一でコロッと死んでしましますが、同一に死ぬという事は病気ではないという事で、これも死のスイッチが入ります。このように、健康だから長生きをするのではなくて、死のスイッチが入らないように生きるという事が、最も適切な生き方であるという話です。そうすると、人間の閉経後の女性は本来ならば意味がないのですが、意味があるのは人間社会がとても複雑で、おばあさんの応援がなければこの社会は保たないという事が分かっております。まだ男性はそこが分かっていませんので、色々とお考えになってお過ごしになったらいいのではという話を前回はしたと思います。

本日は、非常に日本人にとって残念なことがあります。先程、安倍首相のアメリカ・トランプ大統領への訪問という話がありましたが、非常に素晴らしい首脳会議であったと思います。一方で、日本人でありながら日本を辱める活動は非常に継続的に行われていて、一番極端なのは従軍慰安婦問題です。従軍慰安婦の像を造って韓国が色んな所に置いているとよく腹を立てている日本人がいますが、あれは全然腹を立てる必要はありません。従軍慰安婦は日本人が作ったものであって、韓国は一切従軍慰安婦がいたという事を言ったことがないというか、日本から受けて言っているわけです。

ある日本人が言った事を拡散させたのが朝日新聞です。朝日新聞が何故、あの時期に従軍慰安婦をとりあげたのかと言いますと、左翼運動が駄目になったのが1978年です。ベトナム戦争は1975年に終わっておりますが、ベトナムがベトナム人の手に戻った3年後に中国が北部からベトナムに侵攻するという事があり、アフガニスタン侵攻もあったのですが、それによって今までの日本の左翼運動が潰えたわけです。これをどうやって繋ぐかというのが、従軍慰安婦事件と南京事件というでっち上げの事件です。まだ南京事件の方は良かったのですが、従軍慰安婦事件については、ちょうどそれを朝日新聞がキャンペーンをはった後、宮沢首相が韓国に行きたくなったのに、従軍慰安婦事件があり行けない。それならば河野さんに謝ってもらおうというので河野さんが謝って、それで宮沢首相が韓国へ行きました。韓国に対して、大変申し訳ないことをした、日本人が韓国の女性を拉致し慰安婦として働かせたと、8回謝罪しました。

皆さまは違うかもしれませんが、私はこう思っています。私は悪い事をした国の首相が、わざわざ来

て8回謝罪した事は事実としていいとは思いますが。相手の国にしてみればです。だから私はよくテレビなどで宮沢首相と河野官房長官の職歴を抹殺してほしいと言っています。日本の首相とは言えないと。この影響はもちろん国際的にも大きいし、更に国連は当初この問題を取り上げませんでした。しかしこれもご存じだと思いますが、従軍慰安婦という言葉が英語に訳すのが難しかったので、なかなか浸透しなかった。そこで日本の弁護士さんが国連に乗り込んでsex slaveという言葉が初めて使います。これが非常に浸透しました。その弁護士さんは日本に帰国して、私がおのsex slaveという単語を使った為に、国連がこの事をものすごく認めるようになったと得意げに話しているわけです。その時にもう既に従軍慰安婦というのはある日本人が作った虚構であるという事がほぼ分かっていたのにです。

その結果、海外にいる日本人の子供が随分いじめられているわけです。従軍慰安婦像の大きな問題は、この地域に住んでいる日本人の子供達がいじめられる事です。もちろん、国際的にも日本とはひどい所だと。日本軍というのは世界の軍隊の中では希に見るほど秩序が良かった軍隊にもかかわらず、全く反対の事が言われてしまうわけです。もちろん、南京大虐殺事件の、よく言うように200,000人しかいなかった南京の人口が300,000人殺されるという事はないわけです。

しかしこの問題で私が言いたい事は、私達の子供達が非常に惨めな状態になるわけです。このような反日活動を我々がずっと認めていると、日本という国が非常にひどい国であるという印象が植えつけられてしまうわけです。我々は何の為に子供を育て日本を良くしようとしているかという事とは全く反対の事が行われるわけです。現在でもそうで、例えば北朝鮮からは先日もミサイルが打ち上げられました。それでミサイルが日本に対して打ち込まれる時の警戒警報、空襲警報というのは現在決まっております。皆さんは多分お聞きになっていないと思いますが、私がテレビに出演してこの話をする時は必ずこの音を流してもらおうのです。今週の金曜日にも流してもらおう予定で放送局に言っています。そのミサイルが飛んでくる時の空襲警報は日本で決めているのです。ですから北朝鮮からミサイルが上がって日本の経済水域に落下する恐れがある時、先日もそうですが、その時には空襲警報を鳴らさなくてはならないわけです。

何故かと言うと、日本の経済水域というのは漁船が操業している所です。農民は畑を耕しますが、漁民の生活の場所は経済水域です。まさに日本に向かって打ってきているわけです。その時に空襲警報を何故出さないのか?これは出せないのです。何故出さないかと言うと、朝日新聞とNHKがいるからなのです。この状態を、私は右翼や左翼ではないのですが、このまま我々は今そのままにしているのです。空襲警報を鳴らさなくてはいけないではないかと。政府は北朝鮮からミサイルが上がると、北朝鮮に強く抗議をしています。強く抗議をしたって何もならないですよ。問題なのは防御をしなくてはいいから。だから北朝鮮からミサイルが上がって10秒位経つと起動が計算できますから、そこで打ち落とすしてしまっているわけです。



北朝鮮の拉致問題もそうです。日本から随分日本人が拉致されました。大変に国際的には恥ずかしい事で、自国の国民が何十人と拉致されているのに海上保安庁も自衛隊も警察も全然動かないという状態だったわけです。これは反日日本人の責任なのですが、ここはRCなのでもう1つ踏み込んで言うと、我々が何故立ち上がらないのかという事が少し不満と言うか、我々子供を持った親として、反日日本人が言おうと朝日新聞やNHKが言おうと、それが駄目だという事を言う必要があると私は思っています。

NHKの渋谷放送局の中には人民日報の事務所があります。韓国の事務所もあります。そういう状態の中で、人民日報はご存じの通り3年前の8月15日に社説を出して、沖縄は中国のものであるという論文を書いております。それを受けて日本で売られている中国産の安いスマホの一部は、Google Mapの沖縄の所が中国領沖縄地区と日本語で書いてあります。しかしそれに対する日本人の大人の反応が非常に鈍いと思います。

この原因の1つは何かと言うと、我々の子供達が被害を受ける事は目に見えているのですが、にもかかわらず多くの日本人が立ち上がらない一番の問題は戦後のアメリカ軍による、日本が悪かったという宣伝です。これは最近ではよく言われるようになりまして、ちゃんとした名前もついています。簡単に言えば日本人に日本が悪かったのだと強い印象を与える教育プログラムが実施され、それに基づき大体7,000~8,000冊の本が焼かれました。まさに焚書坑儒です。最近では西尾幹二先生が1つ1つその本を掘り起こして、そしてその本の解説をなさっています。西尾先生のそういう解説を読むと、私は1943年（昭和18年）生まれですから、戦後の教育を受けた自分達としては、随分違うなと思わざるを得ないわけです。

その影響が一番大きく出たのが、やはり東大の文学部を中心とした人達だったわけです。丸山真男さんなどを中心とした戦後の東大の論壇です。私も東京大学を出ていて、色んな関係で研究会などをやる事がありましたが、非常に凝り固まっています。簡単に言えば、イギリスがインドを侵略しても進出と言います。日本がフィリピンのアメリカ軍と戦ったものを日本の侵略と呼びます。このように、この呼び名というのは進駐軍が考えた、普通の人が聞いているうちにだんだん日本がひどい事をしたという印象を受けるものです。

例えば満州事変などもそうですが、満州事変に於けるリットン調査団の報告があります。日本が満州国を占領したのが適当かどうか。これは私なんかの教育では、リットン調査団が日本は満州から撤退しろと言っているにもかかわらず撤退しなかったので、国際連盟で問題が起きて国際連盟を脱退したと習いました。しかし、長じてリットン調査団の報告書をじっくりと読むと、もちろん日本に於ける満州の占領は良いとしているわけです。何故良いとしているかと言うと、当たり前なのですが、リットン調査団の調査員は全て欧米の植民地の司令官です。アメリカがフィリピンの副司令官です。ほとんど他は植民地の司令官です。自分達が植民地の司令官なのに日本が満州国を作ったと言って文句を言えば、自分達の植民地が危うくなるのです。

ただ日本に住んでいて日本の教育を受けると、どうしてもこの錯覚を取るのは大変です。例えば、コロンブスのアメリカ大陸発見みたいなものです。最近では違った言い方をしていますが、私達などは1492年コロンブスのアメリカ大陸発見と山ほど習って、これを忘れてたら全く受験も通らないというほど異様でした。ポルトガルの王様に言っても仕方がないのでスペインの王様に言っても船を出してもらったという詳細まで覚える。しかし当時のヨーロッパの人口とアメリカ大陸の人口はほぼ同じです。ですから、ヨーロッパから見ればもちろんコロンブスのアメリカ大陸発見だけれども、アメリカインディアンやアステカ文明、インカ帝国文明から見れば、当然ヨーロッパの侵略です。アステカ王国だけで約20,000,000人なので推定の人口が約100,000,000人だったと。それが1つは白人が持ち込んできた天然痘などの流行病でかなり亡くなり、それからスペイン兵の虐殺でほとんど死に絶えてしまいました。これをコロンブスのアメリカ大陸発見と言うのは、全くヨーロッパからのみ見た事であり、且つ白人と有色人種とでは圧倒的に白人は人間だけれども有色人種は人間ではないという、そういう歴史観からできたものであろうと思います。

これを全て覆すのはかなり大変で、大航海時代も全部命名し直さなくてはならないし、大変な事になります。日本はキリシタンを排斥した、これは日本が近代まで独立できた大きな事です。元々イエズス会というのは、プロテスタントの出現と共に信徒が半分に減ったカトリックが、世界に信徒を求めた。これは別に悪い事ではありませんが、これに軍艦がついてきて、大量の有色人種がそれによって殺されたという歴史になっています。それに関して私が1年位前に『ナポレオンと東条英機』という本を書きまして、本屋さんは物理学者が歴史の本など書いて売れるだろうかと言っていたが、一応出してくれました。本の趣旨はナポレオンと東条英機の業績、人類に対する業績としては、日本人として見なくても東条英機のほうがちょっと上かなと思うのですが、日本人の多くがナポレオンは英雄だけれども東条英機は極悪人であると思っています。その本を出版してからも私宛てへのメールで、「東条英機は極悪人なのに何故武田先生は弁護をするのか」と山ほどお叱りを受けました。その内容のほとんどは、アメリカの日本を駄目にするプログラムにどうしても左右されてしまう人がいるわけです。ここにおられる方も、私が『ナポレオンと東条英機』の話をしたからと言って、ナポレオンより東条英機のほうが立派だったと思われる方はほとんどおられないと思いますが、ちょっと時間をお借りして事実関係をお話したいと思います。

フランス革命は18世紀の終わり1789年に起こったわけですが、一般的に私達が学校で習うフランス革命というのは、昔は博愛と言いましたが、今は自由平等友愛という概念を人類に作ったと言われていたわけです。ただもちろんフランス革命の文章の、「人は」というこの「人」は、白人男性という単語が当てられておりまして、白人男性のみの自由平等友愛です。ですから、フランスにおける婦人参政権、女性参政権はフランス革命から150年経った1946年でありまして。婦人参政権で一番早いのは、も

うちちょっと特殊な例もありますが、国単位のもので、皆さま驚かれるとは思いますが、イスラム教のトルコのアチャチュルクがやった1937年における政教分離に伴う婦人参政権です。もちろん日本ではそのようには言いません。それから人は人種などによらず平等であるという概念を最初に作ったのはマホメットです。これは宗教ですから少しニュアンスが違いますが、イスラム教が出来た時に、神の前に全ての人間は平等であると、そういう概念を打ち出しました。この概念が大体630年位に出来たわけで、紀元7世紀にそういう考えに至るわけですから、やはりマホメットというのは本当に神から予言を受けたのかなと思えるほど早いわけです。

もちろんご存じの通り、イスラム教というのはイスラム教徒自身が最初のうちは無税で、キリスト教徒は税金を払えばいいだけの事で、信仰の自由は保証されておりました。そういう概念というのは、マホメットが作った概念であります。これも我々はフランス革命で自由平等博愛という概念が出来たと学校で教えられているわけです。

1789年にフランス革命が起こりましたが、世の中を新しく変える、時代を変える大きな力が働くと、必ず作用反作用の法則で反フランス革命というのできるわけです。鉄の鋤が出来たのが、ヒットイトで大体紀元前1300年、これが全世界に普及したのが、平均すると紀元前700年位です。それまで石の鋤でどこの家の男も毎日朝から晩まで畑を耕していたのですが、鉄の鋤が出来てサクサクと鋤が入るので全く楽になり余剰生産が生じます。これによって、中国からメソポタミアまで貴族階級と王様、思想家が出てきます。ですから世界の宗教というのは、ゾロアスターやユダヤ教のように古いものは紀元前1000年、仏教が紀元前600年、中国の孔子様などが大体紀元前400~300年なので、鉄の鋤が普及してちょうど300年位経ちますと、そこに余剰生産が生まれ本来いなくてもいいような王様、貴族、僧侶などが現れたわけです。

それからナポレオンの言ってみればフランス革命まで、世界というのは変な状態だったわけです。10%位の余剰生産だけを食べていて耕さない人が、90%位の人からお金を吸い上げるというシステムです。これがずっと続いていたわけで、その為にライ16世の服などを見ますと、冠などをかぶってちんどん屋みたいな服を着ています。あれは人間に錯覚をおぼえさせるものだったのでしょう。それがフランス革命で断頭台の露と消えてみると、フランスの周りの国は「もう大変だ、今まで騙していたのが全部ばれてしまった。王様が全部を取るなんていう事は、ひどい話だとみな気付くだろう。」という事で、反フランス同盟が出来ます。第1次から第7次まで、イギリスを中心としてフランス包囲網ができるわけです。これは軍事的に対抗しなくてはならないという事で、ナポレオンが出てきます。それでナポレオンはもちろん、元々旧体制の中にいるので、後に自ら皇帝となります。しかし、ナポレオンが皇帝となった時も少しは進化していますね。今までの皇帝というのは必ずローマ法王から冠をいただきましたが、ナポレオンだけは仕方がないので自分でかぶったという進歩はありました。

ナポレオンが戦った、時代を大きく変えるエネル

ギーというのは、結果的に何を生むかと言うと、第一に包囲されるという事です。次に包囲された後、多くの血を求めます。何故、人類というのが時代を変える時に多くの血を流さなければならないのかという事は、私以外の専門の方が解説をしていただかなくてはならないです。ナポレオンのフランス革命でも山ほど断頭台の露と消え、且つナポレオン戦争で何十万、ロシア戦争だけで600,000人が死んだと言われていますから、ウォーテルローの戦いを含め莫大な血が流れて、そしてようやく共和制というのが世の中に出てくるわけです。あまりこれも歴史では言いませんが、南アメリカのブラジルなどが独立するのは、やはりナポレオン戦争の後の1815年位です。世界に与える影響というのは非常に大きかったという事が分かります。ナポレオンはウォーテルローで負けて、セントヘレナ島に流されて、そこで一応王様としての威厳を保つよう、もちろん副官もいました。本によってはひどい扱いを受けたと書かれています。そんなひどい扱いを受けてはいなくて、きちんとした貴族としての扱いを受けて亡くなったわけです。一説によると毒殺という説があります。

少し脱線しますが、髪の毛というのは何の為に生えているのかと言うと、血の中に水銀やカドミウムなどの有毒元素が溜まると、どこから捨てなくてはなりません。ちょっと尿からは捨てにくいのです。それで人間はどこから捨てているのかと言うと、髪の毛と爪から捨てています。髪の毛と爪は伸びますから。皆さまも散髪に行くのは髪を整える為と思ってはいけません。あれはきちんと水銀を外へ出す為に行っているのです。爪もそうです。その為にやっています。そうすると、頭の髪の毛が薄い人はどうするのかという問題が起きます。血の中から髪の毛が出てきます。頭皮の血管から髪の毛が出来るのですが、生えてくる時に二座のアミノ酸を引き連れてくるのです。例えば、水銀があるとこれをパクッと啜って毛髪になるのです。ですから毛髪の方に水銀やカドミウムがずれていくのです。

何故こんな事を突然言い出したのかと言いますと、ナポレオンが毒殺されたのではないかという分析がイギリスで行われました。髪の毛の分析がどういう目的で行われるかと言いますと、環境測定などです。例えば縄文時代の人の髪の毛が残っている場合、その髪の毛を分析すると、その時代の毒物の状態が分かるので、そういう研究にも使われます。ナポレオンはいずれにしても戦いに敗れたとは言え、比較的の良い環境であるセントヘレナ島で亡くなりました。

その時に私はフランスを愛しているからセーヌ川の畔に私の墓を作ってくれという遺書を書きます。皆さまは行った事があるかもしれませんが、セーヌ川の畔にアンバリッドという所があり、そこに非常に立派な木で出来た棺が真ん中にあり、その周りに13個、フランスに貢献した将軍の墓が並んでいます。そこは観光地になっています。フランス人は非常に誇りを持ってナポレオンの説明をし、墓を首都に置いているわけです。

それでは東条英機はどうだったのか。これは私の見解ですが、19世紀の終わりのほぼ1900年、世界は全て日本を除いて白人の植民地でした。中国だけが白人に寝返ったのですが、実は有色人種の国で白人に寝返ったのは中国だけなのです。またこれは話が



混乱して、日本にとっては非常に不幸だったのですが、インドにしてもフィリピンにしてもどんな国でも白人に対抗して全部殺されて植民地になりました。ところが、中国だけはアメリカ人を呼んで懐柔して、白人側につきました。日本だけが唯一、有色人種の独立国として世界に一つだけ残りました。

もっと詳しく言うと、エチオピア、ここはものすごい風土病があり、後にイタリアの領土になりますが誰も入らない。それからタイ、これはイギリスとフランスの間の緩衝地帯として両方で牽制する事のないよう残してありましたが、『王様と私』という映画を見ると、実質はイギリスの植民地であったという事が分かります。そうすると、白人は自分達の世界戦略を完成させなくてはならない、完成させる為にはどうしたらいいかと言うと、日本を植民地とする事に決まっています。1つだけ残っているのですから。

そこでまずロシアが来ました。ロシアがまさか日本に負けるとは誰も考えていませんでした。あの当時はニコライ2世がロシアの皇帝でした。その時ドイツのヴィルヘルム2世が親戚だったので、「ちょっと日本に対して強引にやり過ぎたのではないか」と言う、ニコライ2世は「全然何の心配もないよ。戦争をするかどうかは私が決めるのであって、日本は決めないよ。どうせ戦争をすれば滅びるに決まっているのだから。」と言っています。現在の満州の旅順に旅順軍港を作ります。こんな事は考えられません。だって満州はずっと中国領なのです。満州の一番南の旅順にロシア軍港を作ったのです。それから釜山の横に作って、台湾に作るというのが当初の予定でした。それで日本が立ち上がります。一気に踏み潰そうと思ったら、ロシアが負けてしまったのです。

つまりこれは、1820年位のオランダがインドネシアなどを攻めた植民地戦争の最初、アジアの植民地戦争の最初、これから実に400年ずっと有色人種は全ての戦争に連戦連敗だったわけです。1つも勝てませんでした。それなのに突然日本が日露戦争で1勝したわけです。第一次世界大戦では、中国の山東省にあるドイツ領などを日本が攻め落とします。これで一応、日本がやや一流国的になってきます。

その後、日中戦争があり、日中戦争も私の解釈では日本と白人の戦いなのです。中国というのは白人に寝返りましたから。有名な上海事変は、飛行機はロシア、機関銃はチェコ、軍事コマンダーはドイツです。それから上海には疎開地が5つありましたが、攻められたのは日本の疎開地だけです。これも白人対有色人種の戦いであつたと私は思っています。かくしてついに機が熟して、アメリカ、オランダ、イギリス、白人側についた中国が同盟を結んだのがABCD同盟です。それでいよいよ最後に日本を叩き潰して、世界中を白人のものにするという決意でやってきたわけです。真珠湾攻撃がどうのこうのという細かい問題ではなく、大きな歴史を見れば最後の戦いだったわけです。後に日本に原爆を落とした事で分かるように、ルーズベルトはアジアで生かしておく事が出来ない民族は日本人だけだと。だから日本人だけは皆殺しにしようという記録が残っています。

これは、白人にとっては一民族を皆殺しにするという事は現実的な事です。インディアンは皆殺しに

されましたし、アステカ王国もインカ帝国も皆殺しにあったわけです。それと同じように日本人を皆殺しにして、そこに朝鮮人や中国人を入れて、白人の世界帝国を作るという、これがシナリオでありました。ところが戦ってみると、第二次世界大戦を日本が負けたという人が多いのですが、実はイギリスとオランダと中国には勝っているのです。アメリカにも最初フィリピンから追い出しているんで勝っています。私に言わせれば4勝1敗です。最後の1敗はこてんぱんにやられているので仕方がないですが。

戦争をして勝つという事は、戦争を仕掛けた方は自分達の戦争の目的を達成しなければなりません。白人が日本人と戦争をした目的は何だったのかと言うと、全て白人の支配下にする事だったのです。ところが日本と戦ってみると、イギリスはこてんぱんにやられてしまってプリンス・オブ・グレースもレオパレスも沈んでしまう。オランダも徹底的にやられてしまって、後に帰ってくればインドネシア独立戦争でスカルノにやられてしまう。フィリピンでアメリカですら勝ったのにフィリピン独立戦争を押さえることは出来なかった。フランスもベトナムの独立を許した。これは歴史が何を言っているかと言えば、日本が戦ったことによって白人は最終的に植民地をやめなくてはならなくなったわけです。これは巨大な変化で、白人は疲れ切ったわけです。その白人を疲れさせる為にどういう事が必要だったのかと言うと、3,100,000人の日本人の命が必要だったわけです。400年間に亘る白人の有色人種への占領を解く為に、日本人が3,100,000人死んだと。しかしそれはインディアンの6,000,000人やアステカの20,000,000人、インカ帝国の20,000,000人に比べれば、有色人種の被害としては少ない方だったというもおかしいですが、そういう風に思います。

私がガダルカナルの戦いについて随筆を書いているのですが、ガダルカナルに北海道の第七師団の一騎士隊が行くわけです。寒い北海道の師団が、昔は寒い所の師団が日露戦争の時は奉天などに行ったのですが、あの当時は仕方がないという事で、旭川第七師団をガダルカナルへ送るのです。ガダルカナルへ送る時は、輸送船が沈んで亡くなり、到着した30,000人の兵士は玉砕します。私は兵士が知っていたと思います。時代を大きく変える為には、自分達が犠牲にならなくてはならない事を知っていたと思います。大体いつでも歴史が大きく動く時はこういうものです。特攻もそうです。特攻なくして本当にアジア・アフリカ諸国が独立できたのかは大変に難しい問題であり、研究を要するのではないかと思います。

かくして戦争が終わってみると、勝ったはずのイギリス、フランス、オランダ、アメリカですら植民地から撤退してしまって、アジアが全部独立します。それから1960年代になると、アフリカがほとんど独立を始めます。1975年にベトナムがアメリカを追い出して、ついに有色人種の国から白人がいなくなるわけです。これは日本の戦争の目的が良かったという事になるわけです。

そこで東条英機の業績を見ると、どのように評価をすべきか。簡単に言えば、全世界を民族的差別から解放したと言えます。1943年の大東亜会議というのが東条英機の元で開かれております。そこでは中華民国の代表もいるし、もちろんフィリピンやイン

ドも独立戦線から出てきて、世界で初めての有色人種の国際会議です。そこで宣言したのが、強いものは弱いものをやっつけてはいけない、資源のある国が資源のない国をやっつけてはいけない、こういう大原則を打ち出したわけです。それまでは強い国が弱い国をやっつけていいと、もしこんな事がいいのであれば、男性は女性をいくら力で押さえつけてもいいわけです。強いものが正義であると、そんな事はありません。

これは1919年のパリ講和条約で、第一次世界大戦後に日本が人種差別撤廃条項というのを入れようとして抵抗に遭い達成されなかったわけですが、日本は終始、世界に向かって人種差別反対だと訴え続けてきたわけです。だから結局、東条英機が戦争に敗れて責任を取って絞首刑になったわけです。

細かい事は色々ありまして、東条英機は自殺に失敗したから弱虫だと言われていますが、実は東条英機の自宅からは銃火器は全て取り除かれていて、小さいピストルが1つだけあった。これでやるだろうとアメリカ軍は思って、東条英機の自宅の周りに兵隊と医師を駐在させます。何故かと言うと、東条英機を二度殺すというのが彼らの方法で、自殺をしたらすぐに踏み込んで、緊急手術をして一命を取り留め、俺たちの手で絞首刑にするというのがアメリカ軍の作戦です。シンガポールを攻め落とした山下奉文大将が一時干されていて、その後戦争の前にフィリピン司令官になりました。やはり戦争で敗れて捕らえられ、絞首刑になりました。その時アメリカ軍はどうしたのかと言うと、シンガポールを攻め落とした山下奉文大将を辱める為に、イギリスにいたシンガポール要塞司令官を連れて来て、山下奉文大将の絞首刑に立ち合わせるという事をやりました。これは東条英機を二度殺すというのと同じ考えです。

日露戦争の時の乃木將軍とステッセリ將軍の、戦争が終わった後の水師營の会見と全く違う概念でありまして、アメリカという国は中々陽気で良い国でもあります。武士道も何もないという感じがします。そしてその裏、全部言論統制で東条英機は意気地なしだと徹底的な宣伝が行われ、ほとんどの日本人がそう思っております。そして、東京裁判というのは元々裁判の形を成していないので、私は東京リンチと言っているのですが、東京リンチで絞首刑になった7人を、残念ながら日本人は葬らなかつたのです。アメリカの黒人の手に骨が行きます。黒人は1人1人の骨など区別がつかないので全部混ぜられます。そして今どこにあるかと言うと、愛知県蒲郡近くの殉国七士廟という所で眠っておられます。小高い山の上なので、是非お参りに行っていただきたいと思っております。

ナポレオンはフランスの為に戦って英雄として奉られ、その墓がパリのセーヌ河畔にあるにもかかわらず、日本人は何故東条英機をはじめ、戦争で戦った英雄達を愛知県の山奥で出来るだけ目立たないようにしようと、戦後70年経っても変えないのか。という事をその本で書いているわけです。ナポレオンと東条英機の遺書を比べてみれば、その感じが非常によく分かります。ところがこの流れが実は何になったのかと言うと、従軍慰安婦の嘘になり、南京大虐殺のデマの嘘になり、更にはそれが続いて今は北朝鮮のミサイルになり、日本人の子供達がものすごく

大きな心の傷を負ったままであるのです。靖国に奉られている人は2,400,000人位いるのですが、その人達が世界の民族の独立を達成させたにもかかわらず、何かまずいような感じで言われるのです。日本が戦争をする前の世界地図、ほとんど全部が植民地の世界地図と戦後の世界地図、各国がほとんど独立している世界地図を見比べてみれば、それだけで日本がやった事がはっきり分かります。そして、外国から日本に来られた外国人には是非、世界を解放した英雄が眠っているから靖国神社を参拝してくれと言うべきだと思います。それから靖国神社を世界遺産登録すべきだというのが私の考えです。

大体お話の概要は終わったのですが、今になってみれば、私なども戦後教育を受けて本当に日本が悪い事をしたというような、非常に間違ったアメリカ軍の作戦に乗ってしまった。私の友達など武田は頭が狂ってしまったのではないかと感じておりますが、逆に私は彼らに科学をきちんと勉強したのか、事実をそのまま受け止める勇氣はないのかと言うのです。そういう点ではもう一つ、靖国神社の世界遺産登録運動というのは結構それだけでも刺激的というか飛び離れておりますが、例えばここにおられるほとんどの皆さまは、第一次世界大戦・第二次世界大戦というのがあったと思っておられると思います。第一次世界大戦なんてありません。あれはヨーロッパの歴史家が作っただけです。彼らにとってヨーロッパが全世界だからです。あの戦争はほとんどヨーロッパ地区に限定されておりました。せいぜい言ってもオスマントルコが参戦しているくらいです。それからもちろん世界に飛び火はします。けれども戦争自体は第一次欧州戦争です。第一次欧州戦争を我々が第一次世界大戦と呼ぶのは何故かと言うと、これは我々の歴史が全てヨーロッパで出来ているからです。最初に言ったように、平等や婦人参政権など全てヨーロッパを基準に歴史が組み立てられているという事です。

第二次世界大戦も私はないと言っています。時期も違います。ヨーロッパはナチスと周りの国の戦いですから。白人同士の内輪もめです。日本の戦いは日露戦争からベトナム戦争までの、約70年間に於けるアジア解放戦争なので全然質が違います。その証拠に、アジアで戦争が終わったのはベトナム戦争まで続くわけです。日本は1945年に終わっただけで、その後ベトナムもインドネシアもインドもフィリピンもずっと戦って、それぞれ少しずつの段階で独立していくまでは戦争が続いているわけです。それを第二次世界大戦という枠でバサッと切ってしまうのは、まさにこれもヨーロッパ史観である事は間違いないです。

そのヨーロッパ史観というものが、我々の子供に何も影響を与えないならまあいいかという感じはありますが、大東亜戦争を決めた御前会議で永野軍令部総長が「政府の言う所によると、戦わなかったら日本は滅びる。」と言っています。石油も絶たれ鉄鉱石も絶たれれば、日本は滅び植民地になると。戦争で3,100,000人が死にましたが、植民地になったら私の計算ではインドなどの例を見れば20,000,000人が殺されているでしょう。だから戦争では主に兵士だけが死にましたが、それによって他の人が助かったわけです。「永野軍令部総長は軍部から見れば戦う



と負けて、日本が滅びると思うでしょう。しかし、戦わなくても負ける、滅びる。戦っても滅びるなら、戦って滅びた方が我々の子供達にはまた再起のチャンスを与えるだろう。」と演説しました。この演説が元となり開戦したわけです。つまり、戦わなくて良かったのならそれに超した事はないのです。今頃の議論はおかしくて、戦争なんてしなくて良かったのにと。いや、戦争をしなくても滅びる、戦争をしても滅びる。つまり、家に強盗が来ます。戦わなかったら扉を破られて妻子が殺される、戦って外に出ても多分そのまま殺される。どちらがいいのか。非常に変な人が戦ったのは間違っているからだと言いますが、その人は一度永野軍令部総長の演説を聴いて、よく考えてみるべきだと私は思います。

本日私がここでお話した事は、かなり飛び跳ねている事は十分承知しておりますが、やがていつの日か日本は、やはり自分達の歴史をよく勉強して、子供達に伝える必要があると思っております。大きな見方としては、我々の父親や祖父は何故そんなに愚かだったのかという風にテレビなどでいう事があります。我々が考えるような事は、我々の父親や祖父も考えました。その時、どういうベストなものを選択するかという事が問題なのです。それが出されているかどうかを考えなくてははいけません。我々が今の時点になってこんなに豊かな生活が出来るようになったのは、祖父が戦争で死んで独立を保ち、父親が死ぬように働いて高度経済成長を支えたからであり、そういう歴史的な事実を無視して単に批判に走るような事は非常に問題であると思えます。

私はつい最近、テレビで沖縄の基地反対運動に外国人、在日外国人が混ざっている可能性が非常に高い事を指摘したら、色んな騒ぎになりまして、現在放送倫理委員会にかかっております。もしかすると我々が負けると思えます。しかし、この事はまだ日本の中で、在日外国人は日本の破壊活動をするスパイなのです。だから在日外国人が沖縄の基地反対運動をするというのは、国防に関する破壊活動です。それなのにその事をテレビで指摘した我々が訴えられるという、まだそこがねじれているのです。拉致の時もそうなのです。拉致は何故止められなかったのか。拉致を止めようとする止めようとした方が今の日本では批判されるのです。だから在日外国人の日本の破壊活動は駄目だという非常に当たり前な国際的にも普通の事でも、それをテレビで言うと在日外国人から訴えを起こされたのですが、こちらが負ける可能性が非常に高く、これが本当に日本国なのかと思えます。

そういう点では歴史も見直さなくてははいけませんし、それが既に現在も続いているし、非常にはっきりと我々の子供達の将来に関係します。だから我々は日々の生活もありますが、それを超えてやはり正しく日本を評価してもらえよう国際環境にしていかななくてはならないと思えます。本日はこのような場を設けていただき、皆さまには大変お聞き苦しい事があったかと思えますが、私が『ナポレオンと東条英機』という本を書いて、木下さんからご推薦をいただいたので時間をお借りしてお話を致しました。どうもご清聴ありがとうございました。